

2016年7月26日

白井市議会議長 秋本 享志 様

北総線の運賃値下げを実現する会

会長 太田 誠

北実会からの提案の具体化のお願い

平素は白井市政に重要なお立場でご尽力され、心から敬意を表します。

先日(6/24)、私ども北実会との意見交換の場を設けていただき、ありがとうございました。私どもの考えが議員の皆様にとどこまでご理解いただけたかは、説明する側の責任でもあると思ひ、汗顔の至りです。

ところで、北総線高運賃問題は、白井市が一昨年12月に公表した「第13回住民意識調査報告書」によれば、「鉄道の運賃問題対策」が重要度でも、満足度でも断トツで重要かつ不満足となっております。運賃問題の解決は市政にとっても住民の生活にとっても喫緊の課題であることは申すまでもありません。

北総鉄道の高運賃値下げは、確かに簡単な課題ではありません。しかし北総鉄道や京成電鉄が北総線経営により得ている収益は、他の鉄道に比べても圧倒的に高い利益率(約30%)であるのはご存じのとおりです。北総鉄道の高運賃が、千葉ニュータウン地区の発展の大きな阻害要因になっていることも、だれもが認めるところです。

また、平成30年3月に更新される北総鉄道と千葉ニュータウン鉄道との線路使用料契約は、千葉ニュータウン鉄道区間(小室～印旛日本医大)の運賃全額(平成27年度25億円)をもって北総鉄道の線路使用料とするとされています。このため北総鉄道にとっては、千葉ニュータウン鉄道区間を運行しても、1円の収益も上がらないという不可思議で不利な契約となっています。

一方、同区間を利用している京成電鉄は4億円弱の線路使用料と推測されます。運行本数の割合では 北総/京成=60/40にすぎませんから、いかに北総鉄道が理不尽で過大な負担をさせられているかがわかります。平成30年の更新(異議申し立てしなければ10年間延長)時には、ぜひとも線路使用料契約を合理的かつ適正なものにしていただきたいと思います。

当会との意見交換の場で提起させていただきました件につき、行政へも働きかけいただき、ぜひ具体化していただきたく重ねてお願い致します。



記

1. 値下げの方策を協同して検討する組織の再結成、
例えば「北対協」のような組織
2. 活性化協議会（鉄道事業者と同じテーブル）を生かす
3. 利便性の向上
 - ・ 白井にアクセス特急を停める
 - ・ 回数券の
 - ① 利用時間枠の拡大
 - ② 有効期限の延長
 - ③ 平日昼間と土日休日回数券の統合など
4. PASMO(あるいはスイカ)でも、回数券と同様に平日昼間及び土日休日割引扱いとする
5. その他(京成カードのみでなく、都営地下鉄と同様に一般のクレジットカードによる定期券購入を可能とするなど)

以上